

会 議 録

1 会議名

令和元年度「第3回上越市スポーツ推進審議会」

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

- ・令和元年度スポーツ推進事業の実施状況について（見込み）

(2) 報告事項（公開）

- ・上越市第2次総合教育プラン後期実施計画（令和2年度～令和4年度）
- ・令和2年度予算（案）の概要について
- ・上越市立上越体操場「ジムリーナ」のオープンについて
- ・東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業について

(3) その他

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた市の対応状況について

3 開催日時

令和2年3月30日（月）

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より資料送付を行い、協議事項（資料1）について意見聴取を行った。

4 開催場所 ー

5 傍聴人の数 ー

6 非公開の理由 ー

7 協議事項について寄せられた意見の内容

【土田委員】

事業全体についての意見にはならないと思うが、オリンピック・パラリンピック2020の延期が決まったことについて心配している。

上越市は、ドイツチームのホストタウンとして活動してきた。延期の時期がいつになるかという問題はあるが、おそらく1年近くの間ができると思う。その間に交流を絶やさずにいることが求められると思う。人的交流にはしばらく時間ができると思うが、何らかのメッセージを送り続ける（交換する）など、できる範囲での交流を絶やさないことと、人的交流が再開されることとなった場合に、速やかに受け入れができるように準備しておくことが求められると思う。延期が長期化すると年度をもうひとつ跨ぐことになるので、ホストタウンサポーターの方々も含めて熱が冷めないように事業を何らかの形で継続していくことが大事である。

【亀山委員】

スポーツ推進の取組が順調に進んでいる様子が読み取れた。

ジムリーナや謙信公武道館のオープン、その上、新型コロナウイルスの対応もあり、大変な一年であったと思う。オリンピック開催すら危ぶまれている状況なので、次年度の取組が順調に進められるのか、懸念されるのはその点である。

しかし、悩んでも仕方ないことでもあるので、粛々と準備を進め、果敢に決断して対応するしかないと思う。

【高橋委員】

- ・ 「施策. 1」について

少子高齢化・人口減少の中、成果ばかりを求めるのではなく、5年後10年後の先を見て、地域ぐるみのスポーツ活動をどのようにサポートして行くのか協議していかなくてはと感じている。

その為には、各事業推進団体等とのヒアリングをじっくり行い活動実態の把握と分析の必要性を感じる。

- ・ 「施策. 2」について

「施策. 1」と同じだが、人口減少の中、結果ばかりを求めるのではなく、先を見据え競技スポーツというものに広く取り組める事業展開が必要ではないだろうか。

その為には、底辺の拡大をテーマに学校教育の場と地域のスポーツ団体等とのマッチング等を協議していく必要性を強く感じている。(近年、子供がスポーツに親しむと保護者が大変だからと言う声をよく耳にするが、スポーツを通して人と人のかかわりや色々な感動を体感して心の成長もしていくことのアピールが必要と思っている。)

- ・ 「施策. 3」について

大きな施設も大事かと思うが、これからは各地域にある施設内にトレーニング設備(ランニングマシンやトレーニング用機器)等を完備して行く必要性を感じる。

各種スポーツにつながるトレーニングの場や、身体を動かしながらスポーツに親しむ場として、誰もが活用していける要望が高まってくると思われる。

5年、10年先のスポーツに親しむ人達のニーズが、どの様に変化していくのか模索しながら環境を整えていくべきものと考えている。

- ・ 成果の達成状況について、結果の数値も大切だが、思うように活動出来なかった事業等の分析をしっかりとやる事も大切かと感じている。
- ・ 上記内容を教育プランの後期計画にどのように取り入れていくか。また教育現場の問題把握と改革の進め方において方針や目標を明確にしていく必要性を感じている。

【和栗委員】

- ・ 高齢化が進む中 2月末で106.3%の達成率は高齢者がスポーツに対する意識が高くなってきているのだろうか。

- ・ 平成30年度より話を進め、令和元年10月に市レクリエーション協会、身体障害者連絡協議会とスポーツ推進委員との体験交流会を実施した。不安な面もあったが思った以上に沢山の人が来てくれて良かった。

今後も継続することで話し合いが進み、3団体の1つのイベントになってほしい。

【春日委員】

- ・ 令和元年度、3 団体（スポーツ推進委員会、上越市身体障害者連絡協議会、レクリエーション協会）が連携し、はじめて障がい者スポーツ・生涯スポーツ体験イベントを開催することができた。
お互いの団体の利点を引き出しながら、運営できた事は一步前進できたと思う。
参加者も子どもから高齢者、そして障がい者、留学生と幅広い層で集まり楽しく、有意義に交流を深める事ができた。
次年度も今年度の反省点を踏まえて、是非、実践していきたいと思っている。
- ・ 生涯スポーツ活動の中で、2 年度は市民の健康維持増進に向けたスポーツ活動の充実に取り組む一つとして上越市立上越体操場の活用があげられている。
オープンしてから何回かトライアルイベントを開催しているが、やはりまだ近くの地域の方の活用が多く、市民全体に浸透していないように思われる。
そこで各スポーツクラブを中心に各地区で宣伝し、体験者を募り、メインの活用月を指定していただくと、より一層利用者が増えるのではないかと思う。（足を運びやすいように仕掛けるのも一つの方法かと思う。）

【川澄委員】

- ・ 11/9 ニューススポーツ体験交流会について（33 名）
参加者同士の交流も深まり楽しい会だったと思う。ただ、当協会の 13 地区の会員の出席率が 0 は残念だった。
- ・ パラリンピックの公式種目であるボッチャの普及が上越市内において顕著であり、上越市身体障害者連絡協議会で「さくらドリームクラブ」の名称で練習しているボッチャクラブのもとへボッチャ体験依頼が小学校・高校を含む 4 校からあり実施した。
令和 2 年度はスポーツ推進委員の御力を借りて独自の開催も視野に入れたい。
- ・ レルヒ少佐顕彰会及びスキー発祥 110 周年記念事業について
上記の件の開催を考える時、日本スキー発祥記念館の車椅子トイレ・スロープ設置など、金谷山近辺の整備が先決と思う。
- ・ 障害者スポーツの普及を（特に若い人へ）お願いしたい。

【三浦委員】

- ・ 2020 年東京オリンピック・パラリンピックが新型コロナウイルス感染症の影響で 1 年延期となったことに伴い、第 2 次総合教育プラン後期実施計画「施策 7-1 生涯スポーツ活動の充実」や「施策 7-2 競技スポーツの発展」を見直す予定があるか。
また、令和 2 年度の「東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業」についても見直す予定があるか。
「世紀の祭典」を様々な取り組みのきっかけにしようとする趣旨は理解するが、こうした“一過性”のイベントの効果を各施策にどのように具体的に反映させようとするのかも含め、このタイミングで見直すべきでないか考える。

【竹原委員】

- ・ 総合型地域スポーツクラブ育成について
各地区において会員数に大きな差があるのはなぜか。（名立区は 51 人、中郷区は 3,638 人）
- ・ 総合型地域スポーツクラブ、市スポーツ協会に所属する会員数について

令和元年度の目標 26,300 人に対して 27,315 人であり 1,015 人の増、「さとまるスポーツクラブ」の 3,638 人の参加（加入）があったためであり、この加入が無ければ相当数の減である。

- ・ 競技スポーツの成果指標の達成状況について
令和元年度の目標数値より達成状況が相当数向上している。
- ・ 「施策.2」について
①ジュニアトップアスリートの育成強化補助金の文章中、「年齢や学校の枠を超えた一貫指導体制の整備とあるが、具体的なスポーツ団体名、人数、学校名、どのような指導体制を整備したのか、また、その成果を参考までに知りたい。

【竹内委員】

- ・ 生涯スポーツ・競技スポーツともに目標を達成している。今後も目標達成に向けて協議していく。

8 問合せ先

教育委員会スポーツ推進課 企画推進係

T E L : 025-545-9246

E-mail : sports-k@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の資料も併せてご覧ください。